

セルフイメージを高める

龍華 明裕 (RYUKA, Akihiro)

受験勉強をしていると不安になるときがあると思います。本当に受かるか、この時間を費やす意義があるか、受かった後に活躍できるかなど。不安は勉強の効率を下げます。だから受験勉強においては自分のマインドをマネージするスキルが大切です。

不安を感じたとき、私は積極的にセルフイメージ作りをすることを勧めます。自分とお客様との関係、発明者との関係、会社や事務所の人達との関係、そして家族や友人との関係において、どのような自分でありたいかを細部に渡って明確にします。そして全ての場面で最高に人生を楽しんでいる自分をイメージします。

セルフイメージは、必ずしも大きな特許事務所を作り、多くのお客様に囲まれて、という壮大なものである必要はありません。自分を動機付ける為のセルフイメージはむしろ実現可能と思えることが大切です。例えば「弁理士になって年収3000万円!」と自分に言って聞かせても、それが現実的に思えなければ意味がありません。

一方でセルフイメージは、自分自身をワクワクさせる、自分にとって魅力的なイメージである必要があります。例えば、英語が得意な人であれば、外国のお客様に対して日本の法制度を丁寧に説明し、信頼を得ている自分のイメージを作っても良いと思います。技術が好きの人であれば、発明者と共に議論を重ねて技術検討を深めている自分を、マネジメントが得意な人であれば弁理士として多くの人を動機付けている自分をイメージしても良いと思います。

大切なのは、そこで真に人生を楽しんでいる自分のイメージを描くことです。いくら仕事や収入があっても、その人生に自分で誇りを持ち満足することができなければ、人生という長いスパンで、その方向に自分を動機付け続けることは困難だからです。

勉強に疲れた時は、目を閉じ心を自由にして、真に人生を楽しんでいる自分を思い浮かべてください。するとそこには、おそらく他の人が存在していると思います。その人と自分との心の繋がりをイメージします。すると自分が求めている自分のあり方が浮かんできます。

そしてイメージする範囲を、会社の人との関係、お客様との関係へと広げていきます。どのような自分であって、それぞれの人からどのような信頼を得ているかを明確にします。例えば、部下に技術や明細書の書き方を教えて尊敬を得ている自分、部下を理解することによって信頼を得ている自分、権利化の方針をアドバイスしてお客様の信頼を得ている自分などのように、何らかの理由によって信頼関係を深めている自分をイメージします。

ただし弁理士を目指す以上、セルフイメージは、自分が憧れる弁理士としての自分、誇りに思える自分のイメージである必要があります。

残念ながら今の弁理士業界において、真にお客様の成功を願って仕事に取り組む弁理士は稀です。お客様に気に入られるように、あるいは嫌われないように、言われたことをやるだけの弁理士



が多いのです。勿論、最初は言われたことをきちんとやるのが目標になっても良いと思います。しかし弁理士の可能性はそれに留まりません。

弁理士は、日々、多くの業界の最先端の技術者に会い、発明や技術について議論を重ねます。勿論、お客様から伺った秘密情報を他のお客様に話すことはできません。しかし議論を通じて高められる技術の洞察力や、幅広い公知技術の知識は、他のお客様との議論で大いに役立ちます。本当は殆どの技術者が、自分の発明について誰かと議論を重ねたいと願っているのに、その相手になれる人が非常に少ないのが実態です。特許業界は発明について深く議論することのできる弁理士を求めています。

弁理士が依頼されたことだけをしようとすると、知財部の弱い企業は困惑します。そのような企業は何を依頼すべきかが分からないからです。そこではお客様の実情を深く理解し、どの分野で、どこの国で、どれだけの特許を出願し、どのように事業を守り、育てるかをアドバイスすることのできるコンサルタントとしての弁理士が求められています。

受験期間は、自分の中に弁理士としての高い意識を育てる最高のチャンスでもあります。高いセルフイメージを抱き、それを目指して試験に合格した人は、合格後もそのような弁理士を目指して成長を続けます。

中にはセルフイメージや目指す目標を作ること自体に躊躇する人もいます。その理由は、例えば、今まで何度も目標を作ったけど殆ど達成できなかったというものです。

私も目標が達成できなかったことは多々あります。例えば英語。「英語ペラペラ」になるという目標を立てて英会話学校に通い始めたことが何度もありますが、どれも半年しか続きませんでした。教会やサークルの英会話も含めると、おそらく10か所以上に申し込んだので、少なくとも10回は未達成だったこととなります。

しかし半年ずつであっても、10回以上もチャレンジしていると徐々に英語のスキルは向上してきます。確かに個々の目標は達成できなかったのですが、ある時期、目標を持って進んだことは、それが短い期間であったとしてもプラスなのです。

目標を持つ意義は、それを達成することだけにあるのではなく、そこに向かって前進できる点にあります。そう考えると様々な目標を作ることには躊躇しなくなります。

受験勉強において自分のマインドのマネジメントは重要です。そして試験勉強期間中は、試験に受かった後の自分のイメージを作る良いチャンスでもあります。大きな自分、社会に対してより大きく貢献している自分のセルフイメージを作り試験を突破してください。応援しています。

(RYUKA 国際特許事務所／弁理士)